


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成28年11月16日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第5号	質問議員	1番	熊澤友子 
件名	認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを			
要 旨				
<p>厚生労働省は、「認知症を知り 地域をつくる 10 ヶ年」の構想を 2005 年 4 月よりスタートさせました。1 年目は認知症を知る。2009 年度は(中間年)認知症について学んだ住民が 100 万人程度に達し、地域のサポーターになっており、認知症になっても安心して暮らせるモデル的な地域が全国各都道府県でいくつかにできている。2014 年度最終到達目標は、サポーターが地域に数多く存在し、すべての町が認知症になっても安心して暮らせる地域になっている事です。</p> <p>2015 年厚生労働省の発表によると、日本の認知症患者数は 2012 年時点で約 462 万人、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には、700 万人前後に達し 65 歳以上の高齢者の約 5 人に 1 人を占める見込みです。このことを踏まえ政府は、認知症への支援を強化する認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)を策定いたしました。新オレンジプランは認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進、認知症の人の介護者への支援、認知症を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進等を含めた 7 つの戦略が柱となっております。</p> <p>本町では 2015 年に第 6 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画が策定され、認知症対策も取り組まれておりました。安心して暮らせるまちづくりのために、下記の 3 点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 認知症の早期発見につなげるために、認知症チェックリストをホームページから出来るようにする考えは。</li><li>2. 認知症サポーター養成講座の参加人数の拡大と認知症サポーターステップアップ講座を実施する考えは。</li><li>3. 徘徊模擬訓練に取り組む考えは。</li></ol>				